

## 防災サポーター養成講座を実施しました

今回で3年目を迎えた『防災サポーター養成講座』が1月17日から全3講座の内容で開催され、今年度は16名の方が全過程を修了されました。

この講座は、災害や防災対策について一定の知識と技術を持った人材を育成すること、災害の被害を軽減し、被災後の地域の維持・継続を図ることを目的に行われています。

1月17日に行われた第1講座では、防災気象講習として、高知地方気象台の出演者として中平昭彦さん



高知地方気象台による防災気象講習の様子(第1講座)

を講師に、日頃起こりやすい台風や大雨といった風水害や、地震による津波の被害などについての講義を受けました。

自分たちの暮らしている地域は、どんな場所であるか、起きようとしているのかなど、災害の仕組みや地域の防災対策などを詳しく学ぶことができました。

第2講座は、黒潮消防署員より、救命に関する知識と技能を学び、まさかのときに適切な行動ができるよう、心肺蘇生法とAEDの操作について学びました。

第3講座では、15年前に発生した阪神・淡路大震災を兵庫県淡路島の北淡町(現淡路市)で実際に体験し、消防団員として地域の災害対応に当たられた経験を持つ米山正幸さん(現職は野



貴重な体験談を話していただいた講師の米山さん(第3講座)

皆さんも次の機会にはぜひご参加いただき、災害に向き合える、災害に強いまちづくりを一緒に目指しましょう。

そして、わがまちの防災サポーターとなって地域防災力を高めましょう。



災害時などに役立つロープワークを学ぶ参加者(第3講座)

島断層保存館副館長)に、当時の様子をふまえて、被災した直後の災害活動や、大きな災害時には日ごろの活動や地域のつながりがいかに大切であるかといった今後の備えについて講演をしていただきました。午後からは、実技講習として、日本防災士会高知支部の依岡陽子さんと石川洋一さんを講師に緊急処置やロープワーク、身近なものを使ってのテント設置やランプの作り方など、災害時に地域で役立つ技術を学びました。

## 津波警報、高知県内で14年ぶりに発表 —チリ大地震津波—

今年2月27日に南米チリで発生した大地震により、翌日28日には高知県沿岸部に津波警報が14年ぶりに発表されました。

黒潮町では警報発表と同時に災害対策本部を立ち上げ、消防団などの関係機関とともに巡回による広報や防災行政無線などを通じて町民に注意を促したり、一部地区には初めての避難勧告を出すなど警戒が続きました。

町内では午後4時半過ぎ頃から津波の到達が確認され、目視ではあるものの潮位の変化が大きいところで100cmを観測されましたが、被害もなく、無事、警戒体制を解くことができました。

しかし、津波警報により避難勧告が出されたものの避難者は少なく、町内で開催されていた催しも継続されていたことや、津波警報・注意報が解除になる前に避難所から帰宅された方もいたことなど、全国的に課題となっている内容と同様の課題が浮き彫りになりました。

今回の津波対策は、警報レベル(高いところで2m程度と予想)だったことや、遠隔地での地震による津波だったため、避難までの時間が十分にあったことなど、南海地震対策とは条件が違い、かなり違った対応を求められたことを確認しておきたいと思います。

次の南海地震では、早いところは5分程度で「大津波」が黒潮町の沿岸を襲い、30分程度で多くの地域が浸水被害にあうと予想されています。

今回の経験から、津波を「あんなもの」と軽視することなく、被害を軽減するためにも、津波に関する情報が出されたり、大きな揺れを感じたら、役場からの呼びかけを待たず、**まず避難**、そして、安全が確認できるまでは**避難の継続**ということを確認し、津波被害ゼロを目指した対策を進めましょう。